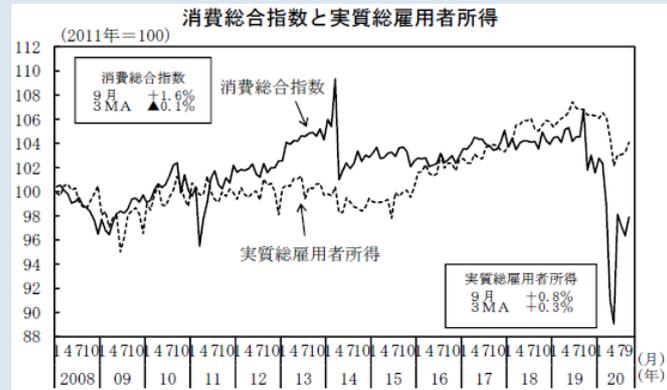


月例経済報告（2020年11月）

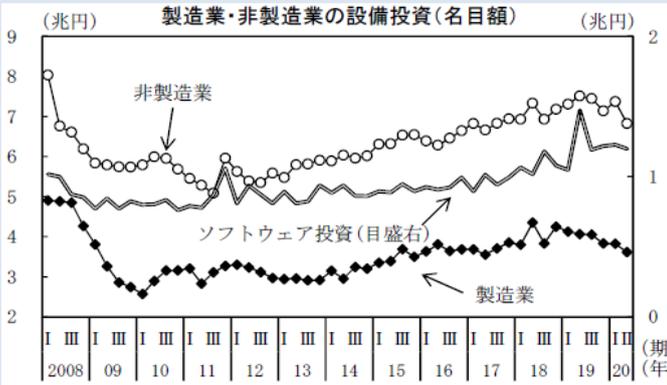
● 月例経済報告（11/25）

基調判断	(11月) 景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる。 感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを引き上げていくなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、持ち直しの動きが続くことが期待される。ただし、感染症が内外経済を下振れさせるリスクに十分注意する必要がある。また、金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。
	(10月) 景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる。 感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを引き上げていくなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、持ち直しの動きが続くことが期待される。ただし、国内外の感染症の動向や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

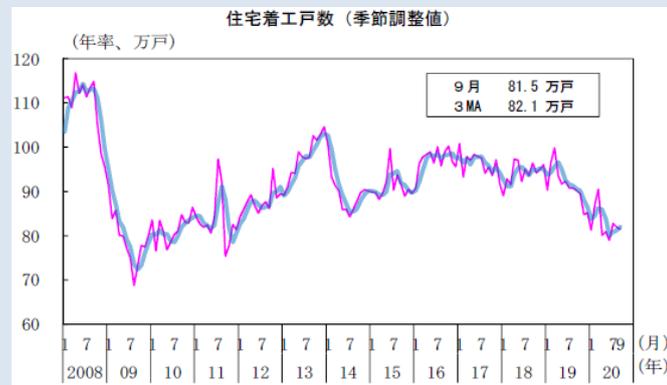
個人消費	(11月) 持ち直している。
	(10月) 持ち直している。



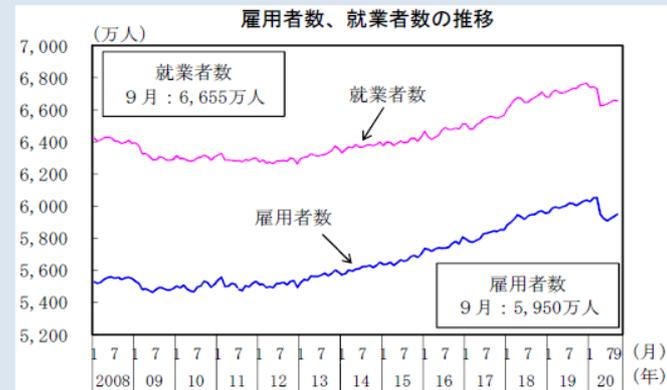
設備投資	(11月) このところ減少している。
	(10月) 弱い動きとなっている。



住宅建設	(11月) 弱含んでいる。
	(10月) 弱含んでいる。



雇用情勢	(11月) 感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、雇用者数等の動きに底堅さもみられる。
	(10月) 感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、雇用者数等の動きに底堅さもみられる。



<p>生産</p>	<p>(11月) <u>持ち直している。</u></p> <p>(10月) 持ち直しの動きがみられる。</p>	<p>鉛工業生産・出荷・在庫・在庫率の推移 (2015年=100)</p> <p>このグラフは、2009年4月から2020年11月までの鉛工業の生産、出荷、在庫、および在庫率の推移を示しています。左側の縦軸は生産と出荷（目盛右）を、右側の縦軸は在庫と在庫率（目盛右）を示しています。2015年を100として、2020年11月の予測調査も示されています。在庫率は2010年頃に急激に上昇し、その後比較的安定しています。生産と出荷は2010年以降、概ね100前後を推移しています。</p>																								
<p>輸出</p>	<p>(11月) 持ち直している。</p> <p>(10月) 持ち直している。</p>	<p>地域別輸出入数量指数 ①輸出 (2015年=100)</p> <p>このグラフは、2008年4月から2020年11月までの地域別輸出数量指数の推移を示しています。左側の縦軸は数量指数（2015年=100）を示しています。全体、アジア（53.7%）、EU（9.7%）、アメリカ（19.8%）の4つの地域が示されています。右側の表は10月と3ヶ月移動平均（3MA）の増減率を示しています。</p> <table border="1"> <tr> <td>全体</td> <td>10月</td> <td>+6.6%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3MA</td> <td>+6.5%</td> </tr> <tr> <td>アジア</td> <td>10月</td> <td>+6.5%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3MA</td> <td>+4.5%</td> </tr> <tr> <td>アメリカ</td> <td>10月</td> <td>+4.9%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3MA</td> <td>+5.6%</td> </tr> <tr> <td>EU</td> <td>10月</td> <td>+11.8%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3MA</td> <td>+8.8%</td> </tr> </table>	全体	10月	+6.6%		3MA	+6.5%	アジア	10月	+6.5%		3MA	+4.5%	アメリカ	10月	+4.9%		3MA	+5.6%	EU	10月	+11.8%		3MA	+8.8%
全体	10月	+6.6%																								
	3MA	+6.5%																								
アジア	10月	+6.5%																								
	3MA	+4.5%																								
アメリカ	10月	+4.9%																								
	3MA	+5.6%																								
EU	10月	+11.8%																								
	3MA	+8.8%																								
<p>国内企業物価</p>	<p>(11月) <u>このところ横ばいとなっている。</u></p> <p>(10月) このところ上昇テンポが鈍化している。</p>	<p>企業物価の推移 (2015年=100)</p> <p>このグラフは、2008年4月から2020年11月までの国内企業物価、輸入物価、輸出物価の推移を示しています。左側の縦軸は物価指数（2015年=100）を示しています。国内企業物価（参考指数、消費税抜き）、輸入物価（目盛右）、輸出物価（目盛右）が示されています。国内企業物価は2010年以降、概ね100前後を推移しています。</p>																								
<p>消費者物価</p>	<p>(11月) 横ばいとなっている。</p> <p>(10月) 横ばいとなっている。</p>	<p>消費者物価の推移 (2015年=100)</p> <p>このグラフは、2010年4月から2020年11月までの消費者物価の推移を示しています。左側の縦軸は物価指数（2015年=100）を示しています。総合、生鮮食品を除く総合、生鮮食品及びエネルギーを除く総合（政策による特殊要因を除く、太線）、生鮮食品及びエネルギーを除く総合（細線）が示されています。総合物価は2010年以降、概ね100前後を推移しています。</p>																								
<p>海外経済</p>	<p>(11月) 世界の景気は、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる。先行きについては、持ち直しの動きが続くことが期待される。ただし、感染症の再拡大が経済活動に与える影響によっては、景気が下振れるリスクがある。また、金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。</p> <p>(10月) 世界の景気は、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる。先行きについては、経済活動の再開が段階的に進められるなかで、持ち直しの動きが続くことが期待される。ただし、感染症の拡大によるリスクに十分留意する必要がある。また、金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。</p>																									